

Australia



Korea



Austria



France



United Kingdom



Kansas



China



Canada



Seattle



Mexico



Global Consciousness

海外留学への誘い

Guide to Study-Abroad Programs

SAプログラム

Contents

経営学部の国際教育とスタディー・アブロード (SA) プログラム	1
スタディー・アブロード (SA) プログラムの概要	2
アメリカ (カンザス大学)	3
アメリカ (ノースウエスト大学)	4
カナダ (ビクトリア大学)	5
イギリス (グロースターシャー大学)	6
オーストラリア (クイーンズランド工科大学)	7
メキシコ (メキシコ国際大学)	8
フランス (リヨン・カトリック大学)	9
オーストリア (ウィーン大学)	10
中国 (北京師範大学)	11
韓国 (東西大学校)	12
SAプログラム体験談	13 ~ 15
SAプログラムに関するQ&A	16
その他の留学プログラムについて	17

経営学部の国際教育とスタディー・アブロード(SA)プログラム

経営学部国際教育推進委員会

経営学部の教育目的は、「経営に関する専門知識を基礎に、国際社会の各分野で活躍できる国際人を育成すること」にあります。このため、経営学部では正規カリキュラムや正規外授業でさまざまな工夫をほどこしています。正規では長短期にわたる海外留学、TOEFL®対策講座の開講、外国人留学生向け日本語教育の実施、さらには英語による授業科目の開設などが、また正規外ではイングリッシュ・ラウンジの開設、外国語スピーチ大会、カンザス大学からの短期留学生の受け入れなどがあります。そのなかで、スタディー・アブロード(SA)プログラムは、約1ヶ月という短期でありながら、成果をあげている正規教育プログラムの一つと自負しております。

現在のSAプログラムのもととなっているのは、この湘南ひらつかキャンパスが開設されて間もない1991年3月に実施された、米国カンザス大学への学生派遣です。この時の学生は選考の結果23名で、6週間にわたる留学プログラムに参加しました。それ以来20数年の歳月が流れています。いまや英語圏だけではなく、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国語の各語圏にある9大学との提携にもとづき、およそ4週間にわたる異文化体験と語学研修の機会が提供されています。SAプログラムはまさにグローバルに展開されてきたといえます。新たな学生のニーズに応えるべく、長期留学に有効な試験対策が組み込まれたSA イギリス (IELTS) や語学研修と就労体験を組み合わせたSAカンザス (プラス・プログラム) に続き、2018年度には語学研修とは別途、世界有数の企業を訪問しプレゼンテーションを行うSAシアトルや、2019年度からはラテンアメリカ文化をより深く理解することを目的とするSAメキシコも実施します。

百聞は一見にしかず、とは古来の名言です。学生のみなさんが、このSAプログラムに積極的に参加されて、文化・言語の異なる環境において貴重な体験を積み重ねられることを心より期待しています。

海外での語学研修と生活体験は、みなさんが自己と向き合い、異文化への理解を深める良い機会となることでしょう。是非、ご参加ください。

スタディー・アブロード・プログラム(SAプログラム)とは、約1ヶ月間、海外に滞在し、その地域の言語と文化をその地域にある現地の大学で学ぶプログラムです。SAプログラムは9カ国(アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、メキシコ、フランス、オーストリア、中国、韓国)12プログラムを実施しています。

滞在中、午前は主に言語の学習、午後はさまざまな活動を通して、現地の人々と交流し、さまざまな場所を訪れ、現地の社会や文化を学びます。

SAプログラムは、経営学部のカリキュラムの一部として位置づけられています。なお、理学部の学生も「関連科目」の履修単位となります。

○ 授業と実習・課外活動

研修先では、基本的に週5日間、午前中は外国語の授業、午後は実習・課外活動というスケジュールになります。外国語の授業は、少人数の能力別クラスに分けて実施されます。また、放課後に、学んだことを実際の場面で使ってみることで、語学力をしっかりと身につけるといっても、海外での研修ならではの学習法といえます。文法、イディオム、ビジネス会話なども、ゲーム感覚で楽しく学べるように工夫されています。また、討論能力がつくように、グループディスカッションなどで実践的外国語運用能力を養います。

午後の実習・課外活動は、当該国の文化・社会・歴史・経済・映画・音楽などに関する学生参加型のレクチャーや、キャンパス周辺の地域の人々との交流、キャンパス内の現地学生との交流、施設の見学など様々です。

○ 寮生活・ホームステイ

SAプログラムでは、大学での授業や課外活動だけではなく、寮生活やホームステイの体験も重視しています。なぜなら、それは人と人との出会いや、数週間にわたって日常生活を共有することを通して、異文化を肌で感じとり、生きた外国語運用能力を身につけるチャンスだからです。また海外旅行とは違って、異文化社会に対する知的好奇心を育むとともに、相互理解の難しさも経験します。

○ 科目登録・単位認定

- ☑ 「スタディー・アブロードI」及び「国際コミュニケーションI」を履修登録する
→ (研修前)TOEFL ITP®受験(英語圏のみ)
- ☑ 「スタディー・アブロードII」(SA)へ参加(現地研修)
→ (研修後)TOEFL ITP®受験(英語圏のみ)
- ☑ 「スタディー・アブロードI」(2単位)
- ☑ 「国際コミュニケーション」(2単位)
- ☑ 「スタディー・アブロードII」(2単位)
- ☑ 「○語(SA)/○語(語学研修)」(2単位)

取得単位合計
8単位

SAプラス・プログラム(カンザス大学)に参加の場合、上記に加え認定 → 「体験学修チャレンジ」(2単位)



The University of Kansas

カンザス大学

アメリカ



- ルームメイトがアメリカ人学生
- ショートホームステイ体験
- 研修期間中、大学施設を利用可
- 有名なKUバスケットボール観戦
- 地域コミュニティとの交流

少人数制のクラスで英語やアメリカの文化・社会について学び、ローレンス市内の施設見学や地域の方たちと交流するイベントなどを通して、アメリカの文化を肌で感じ取ることができます。滞在は、キャンパス内の学生寮でカンザス大学の学生がルームメイトとなります。また、期間中にホームステイもあり、アメリカの家庭生活も体験することができます。週末にはカンザス州内の都市等への小旅行があり、また、全米学生バスケットボールの強豪チームとして有名なカンザス大学のゲーム観戦に参加するチャンスもあります。

★
カンザス州
ローレンス市



授業



学校初日にプレイメントテストを受験し、各学生にあったレベルにて研修を行う。どのレベルであっても基本的には、Listening、Speaking、GrammarとSAアメリカ独自のCommunity Connections、Japanese Tableなどアメリカ人学生だけでなく地域との交流

に重きをおきプログラムが組まれている。

特に日本語を履修している学生と文化交流や会話を練習する時間もカリキュラム化されている。

アクティビティ(例)

- ・ Square Dance
- ・ KU Basketball
- ・ Homestay
- ・ 警察署への訪問
- ・ 幼稚園への訪問
- ・ カンザスシティへショッピング
- ・ ローレンス市役所への表敬訪問
- ・ 日本語クラス履修者との文化交流



1日のスケジュール(例)

7:30	起床
8:00	カフェテリアで朝食
8:30	Listeningクラス
10:00	Speakingクラス
12:00	カフェテリアでランチ
13:00	Community Connections アメリカ人学生と折り紙等を通じて文化交流
15:30	Grammarクラス
18:00	カフェテリアで夕食
19:00	カンザス大学バスケットボール観戦
23:00	就寝

～体験談～

“自分を変えるきっかけ”

大橋佑美さん(参加時1年)

留学に行って、本当によかったです。なぜなら、さまざまなバックグラウンドを持った異なる国の人達と出会い、意見を相手に伝えることの大切さを改めて感じる事ができたからです。また、多くの人と接することで自分を客観的に見る機会をより与えてくれました。また、文化、食生活、職業などアメリカと日本の共通点と相違点をより深く学べました。特にアメリカの学生は向上心が高く、自分に自信を持っていました。私もそうなりたく強く思いました。留学に行ったことで、自分の価値観が変わり、柔軟になり、視野が広がりました。しかし、環境が変わることは自分を変えるきっかけにはなりますが、やはり自分自身が変わらなければなにも変わらないということに気づきました。たった2ヶ月という短い期間でしたが、濃い時間でした。これからはSAの経験を生かして、派遣交換留学へ挑戦します。





Northwest University

ノースウエスト大学

アメリカ

- シアトル郊外の落ち着いた環境
- 世界有数の大企業を訪問するチャンスあり
- 企業訪問でプレゼンテーションあり
- ホームステイ滞在
- バラエティに富んだアクティビティ

★ **ワシントン州** 1934年創立されたシアトル郊外にある私立大学です。シアトルから16キロ東のワシントン湖のほとりに56エーカーの美しいキャンパスが広がっています。午前中に語学研修が行われ、グループプロジェクトや宿題においても積極的に参加するようにカリキュラムが組まれています。午後には、授業や課外活動が行われますが、大学があるシアトルには、世界的有名な企業が多数あるため、研修中には有名企業への訪問等が行われます。週末は、ホストファミリーと一緒に過ごし、アメリカ人の生活・習慣に親しむことも可能です。



授業

予め出発前にプレースメントテストを受け、受講クラスを確定する。午前の英語授業は実力別のクラス編成となるが、午後の英語授業は神奈川大学生だけの特別クラス編成となる。Reading & Vocabulary、Grammar、Academic Writing、Comprehensive Englishを履修するとともにInternational BusinessやPortfolio Project等を学ぶことができる。企業訪問時と研修終了時には、プレゼンテーションを行うため、積極的な姿勢で研修にのぞむことが期待されている。



アクティビティ(例)

- ・ 企業訪問 (Tableau Software、Microsoft)
- ・ ワシントン大学訪問
- ・ シアトル観光 (スペース・ニードル、チフリー・ガーデン・アンド・ガラス等)
- ・ ショッピング
- ・ ポップカルチャーミュージアム

1日のスケジュール(例)

7:00	起床
7:30	ホストファミリーと朝食
8:00	バスで学校へ通学
9:30	Reading and vocabulary
11:00	Grammar
12:30	カフェテリアでランチ
14:00	Microsoftへ訪問 日本のビジネスについてプレゼンテーション発表
18:00	ホストファミリーと夕食
19:00	ホストファミリーとフットボールTV観戦
21:00	宿題
23:00	就寝

~現地プログラムコーディネーターより~

小規模の私立大学だからこそ学生、先生、職員の距離が近く、非常にフレンドリーな環境で学ぶことができます。他国からの留学生と一緒に学ぶ語学クラスだけでなく、現地大学生との交流、ホストファミリーとの生活を通して異文化を学ぶことができます。

また、アメリカ随一のテック都市シアトルならではのハイテク企業への企業見学や、アメリカ人の選ぶ「全米で一番住みたい街」に毎年選出されている美しいシアトルの街散策を楽しむ事も出来ます。





カナダ

University of Victoria

ビクトリア大学



- 世界トップ大学での語学研修
- 海に囲まれた自然豊かなキャンパス
- 現地の人との独自イベント
- バンクーバーへの小旅行
- 日本語可能なスタッフ
- 徹底した留学生サポート

語学研修については、開始時にプレイズメントテスト (Listening Comprehension および Reading Comprehension) を行い、クラス編成の参考とします。クラスは、日本の他大学から来る学生との合同となります。指導の目標はコミュニケーション能力の育成です。

ブリティッシュ・コロンビア州の州都であるビクトリアは、美しく豊かな自然に恵まれた町で、観光地でもあります。英国をはじめ様々な移民のもたらした文化を大切に、多文化共生社会となっています。カナダでもトップクラスの大学で、午前中は英語を学び、午後は市内観光、施設見学などの課外活動を通して、先住民族文化や現代カナダの生活などを学びます。週末にはオプションで、様々なアクティビティ (Whale Watching やバンクーバーへの小旅行など) に参加することができます。

★ビクトリア

授業

週20時間の語学研修では、Speaking、Listening、Reading、Writingを行います。特に異文化コミュニケーションスキルを強化するためListeningとSpeakingに力を入れています。午後や週末には、習得した英語を練習するために様々なアクティビティやフィールドトリップが行なわれます。特にビクトリアで観光名所となっているButchart Gardensへのアクティビティは、プログラム費用に含まれています。



アクティビティ(例)

- ・ダウンタウンツアー
- ・ブッチャート・ガーデン
- ・バンクーバー小旅行
- ・クレイグダーロック・キャッスル
- ・ホエールウォッチング

1日のスケジュール(例)

7:00	起床
7:15	ホストファミリーと朝食
7:45	ホストファミリー宅から学校へ
8:30	Listeningクラス
10:40	Speakingクラス
12:40	カフェテリアでランチ
14:30	ホストファミリーを招待する Culture Nightの準備
19:00	Culture Night
21:15	ホストファミリーと帰宅
21:30	宿題
22:30	就寝

～体験談～

“カナダでの貴重な経験” 佐藤萌花さん(参加時2年)

このプログラムではカナダのビクトリアにあるビクトリア大学に派遣されます。午前中は授業を受け、午後は現地の観光地に足を運び、ビクトリアの歴史や文化を学びました。また、ホームステイを経験することで英語力の向上はもちろん、カナダ文化に自分の肌で触れることができました。カナダでの生活から沢山の刺激を受け、自分を高めるために帰国後も英語の勉強に励んでいます。是非、皆さんもこのプログラムに参加しカナダならではの貴重な経験をしてみてはいかがでしょうか。





イギリス

University of Gloucestershire

グロースターシャー大学



- 2017年度から IELTS対策プログラム開始
- 町並みの美しい落ち着いた環境
- バースやオックスフォードへも日帰り可能
- 公共交通機関のアクセスがいい
- 研修期間中にロンドンへの小旅行あり

グロースターシャー大学がある町チェルトナムは、コッツウォルズ地方の端に位置し、自然と町並みのバランスが取れた落ち着いた雰囲気、イングランドの伝統的な暮らしぶりが見られます。午前中は英語の授業で、週に3回は午後にイギリス文化(ロイヤルファミリー、音楽、スポーツ、食など)を学ぶクラスがあります。紀元1世紀に建てられた古代ローマ風呂跡があるバースや、オックスフォード大学で有名なオックスフォードなどにもアクセスが良く、また、期間中に、世界的な大都市でもあるロンドンも十分に堪能することができます。語学研修については、開始時にプレACEMENTテストを行い、スペイン・イタリア・中近東等、世界各地から集まった学生達と合同で授業を受けます。研修中はすべてホームステイ(1日2食、週末は3食)で過ごします。小規模な大学ですが、それだけに家庭的な雰囲気で様々なイベントも開催されます。

チェルトナム★



授業

ブリティッシュカウンシルに認定されている語学コースです。週20時間の研修では、6レベルに分かれて、日常生活から仕事に至るまで必要とされる実践的なコミュニケーション力を高めるために Reading、Listening、Writing、Speaking を総合的に学ぶカリキュラムとなっています。授業には、イギリス文化も含まれているほか、レベルによって IELTS対策クラスなども履修することが可能です。



アクティビティ(例)

- オックスフォード小旅行
ハリーポッター舞台を見学
- マンチェスター訪問
スタジアムツアー
- ロンドン小旅行
博物館など観光名所を訪問
- カーディフ

1日のスケジュール(例)

- 7:00 起床
- 7:15 ホストファミリーと朝食
- 7:45 ホストファミリー宅から学校へ
- 9:30 Listeningクラス
- 11:30 Speakingクラス
- 13:00 カフェテリアでランチ
- 13:45 Readingクラス
- 15:00 クラスメイトとショッピング
- 17:00 帰宅
- 18:00 ホストファミリーと夕食
- 19:00 ホストファミリーと映画鑑賞
- 21:30 宿題
- 22:30 就寝

～体験談～

“後悔しなくなかった”

イギリスでの1ヶ月の生活を経て感じたことは「やりたい事をやらないと、たった一度きりの人生後悔する」ということです。自分が本気でやりたい事をやっている日本人は少ないと思います。留学に行き、まったく異なる環境で生活し、自分の可能性は、本当に無限大だと感じました。周りの目を気にして、やりたい事が出来ていないなら、死ぬときに絶対に後悔すると思います。最初に留学費を知ったとき、正直、高額だと感じました。しかし今は、留学費以上の成果を得る事が出来たと思っています。自分の可能性に蓋をせず挑戦してみてください。

佐藤玲央さん(参加時2年)





オーストラリア

Queensland University of Technology

クイーンズランド工科大学



- ブリスベンのシティ中心より西に2km
- 研修期間中、大学施設を利用可
- シティまでのシャトルバスも学生証で無料
- 豊富なアクティビティ
- 充実したアカデミックサポートと学生ケア
- キャンパス内に日本人スタッフ
- サークル等で活動可



クイーンズランド工科大学のあるブリスベンは、温暖な気候と豊かな自然に恵まれた、大変治安の良い町です。どこへ行くにも交通の便の良い市内には、植物園、動物園、美術館、劇場などがあり、オーストラリアの文化、歴史、自然を学ぶのにも最適の場所です。午前、午後とも英語の授業があり、午後には課外活動を通して生きた英語を学ぶ機会もあります。オーストラリアの自然等に親しむため、動物公園等への日帰り旅行を学生が計画し、実行することができる等、学生には様々なチャンスがあります。



授業

ブリスベン★

週25時間研修内では、Reading、Writing、Speaking、Listeningを流暢かつ正確に活用できるように学習をすすめる。クラス内では、ペアワークやグループワークを用いた実践型演習が多くあり、英語をコミュニケーションツールとして使いこなせるようにカリキュラムが組まれている。研修期間中には、学生の学習の進捗度を確認するために宿題の他、小テストも日常的に行われる。

アクティビティ(例)

- ・ローンバイン・コアラ・サンクチュアリ
- ・ゴールドコースト
- ・ストーリーブリッジ
- ・ダウンタウン・ショッピング



1日のスケジュール(例)

6:30	起床
7:00	ホストファミリーと朝食
7:30	ホストファミリー宅からバスで学校へ
8:30	Listeningクラス
11:00	Speakingクラス
12:00	Readingクラス
13:00	カフェテリアでランチ
14:00	Writingクラス
15:00	明日のクラス準備
17:00	帰宅
18:00	ホストファミリーと夕食
19:00	ホストファミリーとTV鑑賞
21:30	宿題
22:30	就寝

～体験談～

“オーストラリアで変わった” 瀧戸翔太さん(参加時2年)

オーストラリアの人達はみんな優しくて家までの帰り方や目的地までの行き方など、何でも笑顔で丁寧に教えてくれて非常に居心地が良かったです。また、SAオーストラリアに行く前後で、成長した事がはっきりと分かり、本当に良い経験を積むことができました。かけがえのないたくさんの友達、第2の家族も作る事ができます。

自分を変えたい、成長したい、英語を話せるようになりたい、そう思っている人はぜひSAオーストラリアに参加してみてください。きっと帰ってくる頃には参加して良かったと思うでしょう。





メキシコ

Universidad Internacional

メキシコ国際大学



- 「永遠の春の街」として親しまれている美しい街
- メキシコ人家庭でのホームステイ滞在
- クラスサイズは、5名以下
- 避暑地のゆったりとした環境で語学研修
- 国籍や母国語の特徴を考慮したクラス編成

スペイン語及びスペイン語圏の文化を外国人に教える為の語学教育施設として1980年に創設され、現在では、大学をはじめ小学校、中学校、高校と国際的な人材を育てる教育機関として発展しています。附属語学学校では、各大使館やグローバル企業から多くの学生を受け入れており、教員の質や教授法に定評のある学校です。滞在はホームステイとし、習得したスペイン語を日常生活内にて活用することで生きたスペイン語に親しみ、授業と並行してスペイン語のさらなる上達を目指します。



授業

1クラス5名以下と少人数制を徹底し、1日6時間週5日間と集中してリスニング、会話、読解、ライティング、発音と各分野をバランスよく学びます。ワークショップや課外活動も行われ、メキシコおよびラテンアメリカの文化をより深く理解する環境が整えられています。

クエルナバカ★

アクティビティ(例)

- ・クエルナバカ・ウォーキング・ツアー
- ・カカワミルバ鍾乳洞
- ・テオティワカン遺跡
- ・国立人類学博物館
- ・銀の街 タスコ
- ・ソチカルコ遺跡



1日のスケジュール(例)

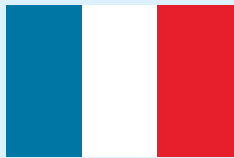
6:30	起床
7:00	ホストファミリーと朝食
7:30	ホストファミリー宅から徒歩で学校へ
8:00	Listeningクラス
9:10	Speakingクラス
10:10	Readingクラス
10:55	ランチ
11:15	Grammarクラス
12:10	Latin Americanクラス
13:10	Conversationクラス
14:00	Club Amigo 現地学生と交流できるコミュニティで いっしょにサルサレッスン
17:00	帰宅
18:00	ホストファミリーと夕食
21:30	宿題
22:30	就寝

～体験談～ (派遣交換留学)

“自分の世界を広げられる機会” 岸洋希さん(参加時3年)

メキシコで留学生生活をおくるということは、日本人が殆どいない環境下で、異文化、異人種、異言語という全く未知の環境に身を置くことのできる貴重な体験になると思います。他国からの留学生が多く、出会いと刺激に溢れています。是非、メキシコに留学して、自分の世界を広げられるような機会にして欲しいと思います





Université Catholique de Lyon

リヨン・カトリック大学

フランス

- 質の高い授業に定評あり
- リヨン中心ベルクール広場近くで便利な場所
- ユネスコ歴史地区なども多く見どころもあり
- リーズブルな授業料
- 学生寮の手配やきめ細かい対応



リヨン・カトリック大学のあるリヨンは、フランス南東部に位置する第二の都市で、山や平野など変化に富んだ地形に恵まれ、チーズやワインに代表される農業、そして絹や薬、電気などの工業においても有名です。また、古くはローマ帝国の時代からヨーロッパ有数の交易市として栄えた都市で、昔の街並みを残した都市建築はユネスコにより世界遺産都市として指定されています。リヨン・カトリック大学が実施する夏期フランス語学・文化講座プログラムでは、このような歴史的・文化的に恵まれた環境の中での課外活動を含め、外国人への教育経験豊富な講師により、ビデオ、新聞、マンガ、文学などを使用した多様な語学教育が提供されます。また研修期間中には、パリ小旅行も実施可能です。

授業

クラスは、特にスピーキングとライティングスキルに力を入れて行われるが、正確な文法、ボキャブラリーやフランス文化を含めた総合的な語学力を教育目標としている。ビデオ、漫画、日常生活、教科書を取り入れ、学生は、積極的にクラスに参加することを期待されています。週20時間語学研修が行われ、学業面、個人的、教育面と学生へより近いアプローチを心掛けている。また、最新の教授法や学習法を取り入れ、質の高い授業を受講できる。

リヨン★

アクティビティ(例)

- ・リヨングラウンツアール 世界遺産を堪能
- ・Institut Lumiere
- ・リバークルーズ
- ・持ち寄りパーティー
- ・Grange du Pin Park
- ・Royal Monastery



1日のスケジュール(例)

7:00	起床
7:30	カフェテリアで朝食
8:30	寮から通学
9:00	Listeningクラス
10:00	Speakingクラス
11:00	Readingクラス
13:00	カフェテリアでランチ
14:00	writingクラス
15:00	クラスメイトとグラウンタウンへ
18:00	夕食
20:00	シャワー
21:30	宿題
22:30	就寝

～体験談～

“SAフランスプログラム” 古谷直之さん(参加時3年)

フランス人はテラスや公園のベンチなどで食事をするを好むって、知っていますか？フランスの夏の気候は日本より乾燥していて過ごしやすくて、ご存じですか？百聞は一見に如かず。Lyonの街はフランスの世界遺産の一つ。世界遺産の街にあるキャンパスでフランス語を学び、昼食はその街に並ぶ商店街や公園で食べる。最高の夏をこのLyonで過ごすことが出来ました。SAプログラムの授業では、フランス人だけでなく沢山の外国人の友達もできました。SAプログラム中でもLyon以外の街への小旅行などのイベントもあるので、よりフランスを味わえます！就活が終わったらまたLyonに行きます。





Universität Wien

ウィーン大学

オーストリア

- ドイツ語圏最古の大学
- 初級レベルから申込可(開講レベルが豊富)
- 歴史や文化に恵まれた環境を体験
- 参加学生の国籍の多様さ
- 華麗な建築、美術館を堪能
- 小旅行あり



ウィーン★

始めに簡単なテストをし、レベル分けされたクラスで4週間(週15時間)ドイツ語を学びます。ウィーンはモーツァルトやベートーベンが活躍した音楽の都として有名ですが、神聖ローマ帝国の首都として、またオーストリア・ハンガリー帝国の首都として栄えた古い歴史のある街です。街の周囲は森に囲まれ、ドナウ川がゆったり流れる自然に恵まれた環境にあります。町の中心部リング通りは、国会議事堂や市庁舎の他にオペラ座やブルク劇場などの文化施設が立ち並んでいます。その一角にヨーロッパの名門ウィーン大学があります。研修期間中は、ウィーン近郊を訪れる小旅行に参加することができます。

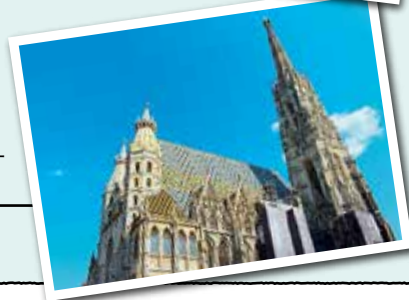


授業

クラスはレベル分けテストの結果により、各自のレベルにあったクラスが確定します。初心者から上級者まで受入を行っております。経験豊富な教員によりリスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの全体的なスキルアップとともに文法、発音、ボキャブラリーの向上を含めた指導が行われます。1レッスンが45分、研修期間中は、57レッスンを行います。また、別クラスの仲間とも交流できるように豊富なアクティビティやレクチャーも用意されています。

アクティビティ(例)

- ・ チェコ日帰り旅行
- ・ ザルツブルク週末旅行
- ・ 美術史博物館
- ・ ウィーン国立歌劇場
- ・ シュテファン寺院
- ・ ウィーン市庁舎
- ・ オープニング/クロージングセレモニー



1日のスケジュール(例)

7:00	起床
7:30	カフェで朝食
8:50	カフェから通学
9:15	Listeningクラス
10:00	Speakingクラス
11:00	Readingクラス
12:30	クラスメイトとシュニッツェルを食す
14:00	シェーンブルン宮殿やモーツァルト・ハウスを見学
18:00	寮で神大生と自炊(夕食)
20:00	シャワー
21:30	宿題
22:30	就寝

～体験談～

“これまでの人生の中で最も成長した1ヶ月間”

越戸萌李衣さん(参加時3年)

ドイツ語を勉強し始めたのは大学2年の後期から。全く話せない状態でウィーン大学での研修に参加しました。オーストリアでの日々は、新しい出会いの連続。世界遺産がすぐ傍にある環境で、様々な異文化を知れたことはもちろん、日本語を学んでいる現地の人たちと交流する機会を得ることができ、充実した1ヶ月を過ごせました。SAプログラムでの経験を活かして、グローバル化が進む社会で活躍していける人材になることがこれからの目標です。





中国

Beijing Normal University

北京師範大学

- 企業訪問など独自プログラム
- チューターにより万全サポート
- 中国文化にふれるアクティビティ
- 充実した中国語教育

午前中は中国語学習、午後は種々な体験学修を行います。中国語学習は、中国語のレベル分けテストを行い、学生のレベルに合わせ初級・中級・上級のクラスに分かれ授業を行います。クラスは欧米アジア各国の学生と合同です。また、現地の中国人学生との交流の機会もあります。中国滞在中は、参加者各自のテーマに沿って、北京市内で調査などを行います。さらに現地で活躍するOBを訪問したり、日系企業のオフィスや工場への見学を行い、中国でのビジネスについて学ぶ機会をもうけます。午後の活動内容は参加者の希望を反映させて決めます。

北京★



授業

プレースメントテストに従って、3つのレベルにより授業が行われる。8時から1限と2限のリーディングとライティングの授業が行われ、3限と4限はリスニングとスピーキングの授業が11時40分まで行われる。1・2限目では、文法の重要事項を確認し、3・4限目では応用練習をする。クラスは、約15名前後。授業内では、前日の復習、単語および例文の発音練習、書写ノートに先生の発音を書き取りさせたり、1人ずつ丁寧に当てて発音を確認するなど教員と学生の距離が非常に近い。会話練習等を含めて、宿題も多い。

アクティビティ(例)

- ・ 京劇観賞
- ・ 雍和宮
- ・ 故宮・天安門
- ・ 雑戯観賞
- ・ 北京汽車博物館
- ・ 円明園(中関村)



1日のスケジュール(例)

7:00	起床
7:30	カフェテリアで朝食
8:00	Reading/writingクラス Listening/Speakingクラス
12:00	クラスメイトとランチ
15:00	学内にて自分の 研究テーマに関して調査
18:00	夕食 夕食をとりながら、神大卒業の先輩と 中国ビジネスについてお話をお伺いする
20:00	シャワー
21:30	宿題
22:30	就寝

～体験談～

“中国は進化している”

関 幹太さん(参加時2年)

SA中国は、企業訪問や現地のチューターが午後の活動の手伝いなどをサポートしてくれる等、他のSAプログラムとは違い、より学生の希望にそってスケジュールを組まれています。

プログラムの主な活動は、午前中は語学学習、午後からは事前に準備した個々の論文の調査や企業訪問、世界遺産見学などを行いました。この1か月で、中国のイメージが良い意味で180度変わりました。日本に帰国する時は、「もう1か月経ったんだ」と思うくらい濃い時間を過ごすことができました。中国はちょっと怖いと思っている方がいたら、今が自分で確かめるチャンスです。





韓国

Dongseo University

東西大学校



- 留学生の受入に積極的な大学校
- 担当者は日本語堪能
- 現地学生との交流
- 語学研修後にソウル研修旅行あり

東西大学校のある釜山は、ソウルに次ぐ大都市で、韓国の中でも代表的な国際都市です。国際貿易港としての機能も果たしているだけでなく、歴史ある寺院や美しい海などがあり、観光地としても有名です。東西大学校は、1965年に東西学院として創立され、現在では、14学部約11,000人の学生を擁する総合大学です。世界38ヶ国212大学と学術交流協定を結んでいます。学内には、完全電算化した中央図書館とマルチメディアセンターがあり、国内外と連携を強めています。メインキャンパスは、釜山の山側に位置しており市街地を一望することが可能です。中心部からも地下鉄・バスで20分程度と便利です。



釜山★

授業

午前・午後に韓国語の授業、授業終了後または週末を利用して韓国文化とふれあう活動に参加する予定です。授業は、プレイメントテストの結果に基づき、クラス分けが行われます。レベルは、初級から上級まで6レベル、1クラスサイズは、約15名です。授業は、他学生にも開講されているため、あらゆる国の学生と触れ合うことができ、語学力だけでなく親睦を深めることが可能です。研修終了後にソウル研修旅行を実施しております。

アクティビティ(例)

- ・釜山市内観光
- ・慶州日帰り研修
- ・ソウル研修旅行
- ・東西大学/経営学部生との交流
- ・日本関連セミナー参加
- ・企業訪問等



1日のスケジュール(例)

7:00	起床
7:30	ゲストハウス近くのカフェで朝食
8:00	学校へバスにて移動
9:00	Listeningクラス
11:00	writingクラス
13:00	昼食
14:30	Speakingクラス
17:00	ゲストハウスへバスにて移動
18:30	夕食
20:00	シャワー
21:30	テストにむけて自習
22:30	就寝

～体験談～ (東西大学校参加者)

“次のステップへ進むきっかけに”

新倉峻太さん(参加時2年)

SAプログラムに参加したことによって、次のステップへ進むきっかけになりました。韓国語を学ぶために参加しましたが、それ以外に得たものも多かったです。韓国語だけでなく、様々な国の人と関わり、異文化を経験してこんなにも広い世界があると知ることが出来ました。私は1ヶ月という、長いようで短い期間でまだ満足することが出来ずに自分の力を伸ばしたいと感じたため、1年間の派遣交換留学へ挑戦します。この決断はSAプログラムという経験が無ければ出来なかったことです。次のステップに進みたい方はSAプログラムに参加してみてください。



SAプログラム体験談 //

学生アンケート

植村 太一さん

参加時：2年
SAアメリカ



Q1 SAプログラムに参加した理由を教えてください。

以前から海外に興味があり、語学研修だけでなく、現地学生とも深くかかわることのできる面白そうなプログラムだと考えたからです。また、それまでバスケットボールとも本気で向かい合っていたので、ぜひ本場のプレーを観戦してみたいという思いもありました。

Q2 渡航前に心配だったことはありましたか。また、それに対して準備したことはありますか。

特にありませんでした。むしろ期待が募るばかりでした。



Q3 研修中に苦労したことはありましたか。

特に無かったです。強いていうなら、思ったよりも英語が速くて耳を慣らすまでに少し時間がかかりました。でも、難しい単語で話すというよりはこれまでの英語で十分意思疎通はできると思いました。

Q4 研修中に一番、印象に残っていることは何ですか。

アメリカの学生は、勉強熱心だと感じました。また、下を向いている学生が少なく、みな堂々としており日本とは大きく違うなあと思いました。

Q5 研修後、目標/キャリア形成において考えることはありましたか。

自己分析が明確にできるようになりました。今、自分は何がしたくて、何をしたいかなど物事をきちんと見極められることができるようになったのが一番の収穫でした。だから将来は、自分の信念やキャリアをしっかりと見据えて行動をしていきたいと思えます。

Q6 今後どのように留学経験を生かしたいと考えていますか。

異文化にふれることができたのは本当に財産となりました。多種多様な価値観を肌で感じたことで、この先、生きていくことへの楽しさややりがいなどを自己のテーマに合わせて挑戦していきたいです。現在、自分で将来を構築中ですが、狭い価値観にしばられビジネスチャンスを失わないように心がけています。

Q7 これから参加する後輩にメッセージをお願いします。

瞬間、瞬間で「感じたこと、思ったこと、言いたいこと」を常に大切にしながら、海外の方ともコミュニケーションをとってほしいです。必ず、海外で体験したことが自分を助けてくれる術になると思えます。



保証人アンケート

植村 征子さん

植村 太一さん(母)

Q1 入学前にSAプログラムをご存知でしたか。

知りませんでした。

Q2 短期留学にどのような印象をお持ちでしたか。

短期留学のため、日常生活に慣れることで精一杯ではないかと心配しました。

Q3 息子さんがSAプログラムに参加することに賛成でしたか。賛成の場合は、理由も含めて教えてください。

旅行ではなく、語学習得の一貫として大学プログラムに参加するということでしたので賛成でした。

一人暮らしをさせていたので、様々な留学プログラムの詳細を親が把握することが難しいなか、経営学部が主催しているプログラムという点においても安心して送り出そうと思えました。

Q4 渡航前にご心配だったことはありましたか。

治安に対する不安が一番でした。また、ホストファミリーや現地の学生と会話ができるとかなど語学力においても心配でした。

Q5 SAプログラムから帰国した息子さんが以前と変わったこと(成長等)はありましたか。

異文化や異なる習慣等にふれたことで、日本では体験することのできない経験をし、日本文化や日本語に対する思いを再確認したようです。第二言語への取り組みの変化を感じることができました。

Q6 保証人からみて留学は有意義でしたか。

大学生活の中で留学により、新しい発見・体験・価値観や考え方を体験してくれたことは今までの基準がすべてではないと感じてくれたと思います。

Q7 今後どのように留学経験を生かしてもらいたいとお考えですか。

失敗を恐れずにとりあえずやってみること、自分の意見を素直に主張してみることで、その代わりに相手の意見や分からないことは受け入れて、自分からチャンスを掴んでほしいと思います。謙虚に吸収しポジティブに前に進んでほしいと思います。

Expectations of Future

植栗 千夜さん

日本ヒルトン株式会社(ヒルトン東京)

参加時：2年
SAオーストリア

Q1 SAプログラムに参加した理由を教えてください。

高校生の時に母で行った海外旅行でオーストリアを訪れ、綺麗な街並みと伝統的な建築物に魅了され、ここで勉強してみたいと思ったからです。希望すれば誰でも参加できる留学なので、まだ語学力に自信がありませんでしたが友達と一緒に頑張ろうと思い、応募しました。

Q2 渡航前に心配だったことはありましたか。

心配だったことは語学力です。留学と聞くと、現地の人のように流暢にその言語を話せる人が行くものだと考えていたので、まだ自分には少し早いのではないかなと感じていました。なるべく現地で困ることがないように、渡航前に今まで授業で習った文法や語彙を復習し、また日常生活で使いそうなフレーズが多く載っている本を個別に購入して準備をしました。

Q3 研修中に苦労したことはありましたか。

苦労したことは、授業で積極的に発言をできるようにするまでに時間がかかったことです。私はウィーン大学で一ヶ月間ドイツ語のクラスを受講していました。初級クラスの授業を受講し、グループワークやクラスで発表する機会が多かったため積極的に授業に参加する必要性がありましたが、最初は発言をすることが怖くてとても消極的になってしまいました。しかし、消極的なままではグループの評価が下がってしまうためなんとか変えなければと思い、一日三回はクラスで発言することを決めました。毎回三回以上発言することはできませんでしたが、次第に発言することに慣れ、それにつれて積極的に授業を受けられるようになりました。

Q4 研修中に一番、印象に残っていることは何ですか。

一番印象に残っているのはクラス写真を撮った時です。私のクラスは15人ほどで日本人は私を含め4人でした。最後の授業の時にクラスメイトと担当の先生で集合写真を撮ったのですが、そのとき全員が本当に打ち解けた状態で楽しく写真を撮ることができ、例え母国語が違っていても、また現地の言葉が初級レベルしか話すことができなくても友達になれたことがとても嬉しかったです。みんな価値観や文化も国ごとにばらばらで、授業が始まった頃は会話も少なく授業外ではほとんど交流がありませんでしたが、一ヶ月という短い期間でも仲良くなれたことに感動しました。もっとこのメンバーでドイツ語を勉強したいと思いましたし、また同時にSAプログラムに参加できて本当に良かったなと思った瞬間でした。

Q5 研修後、目標/キャリア形成において考えることはありましたか。

SAプログラムで、私は様々な国のの人々と交流することや新しい文化に触れることが好きな自分に気付き、もっとドイツ語を勉強してさらに多くの国の人と交流してみたいと思うようになりました。ドイツにはオーストリアよりも多く移民の方がいるので、ドイツに長期滞在ができればもっと多くの国の人と交流できると考え、新たな目標として派遣交換留学生としてドイツに長期留学を目指すようになりました。また、将来仕事をするうえで海外の人と関わりながら働きたいと考えるようになりました。

Q6 今後どのように留学経験を生かしたいと考えていますか。

学生時代に経験した三度の留学は、私のキャリア形成においての原点そのものです。SAプログラムに参加した時点では、海外の人と関わる仕事に就きたい、と漠然と考えていましたがどの仕事をしたいかはまだ分かりませんでした。しかしドイツでの一年間の派遣交換留学で約18ヶ国の異なる国のの人々と一緒にドイツ語で生活するにつれ、言語の大切さを身をもって感じ、日本語、英語、ドイツ語を使って多くの人と交流できるホテル業を目指すようになりました。将来はドイツで働くことも視野に入れ、なるべく外国人の方と接する機会を増やし経験を積もうと考え、外国人のお客様の割合が高い外資系ホテルを選びました。

Q7 これから参加する後輩にメッセージをお願いします。

神奈川大学に入学した頃は、海外にただ少し憧れを抱いていただけで、ここまで自分の将来に留学経験が影響するとは思いませんでした。しかし今大学生活を振り返ると一番力を注いでいたのが留学であり、留学は私に将来やりたいことを教えてくれました。人によって、留学で得られるものは大きく異なると思いますが、確実に、自分を見つめ直させてくれるもののではないかなと私は思います。なぜなら留学先には現地の学位を得るため、働いて稼ぐため、また永住するために勉強しに来て

いる海外の留学生がたくさんいて、多くの学生が何か目的をもって親元を離れ勉強しているからです。彼らと一緒に生活することで、自分は何を目的に留学をしているのか、将来どんな仕事をしたくて、そのために今何をしなければいけないのか等を考えさせられる時が来ると思います。様々な価値観に触れた上で自分を見つめ直すと、本当にやりたいことや興味あるものがきっと見つかるはず。留学に明確な目的がなかったとしても、勇気を持って一度SAプログラムに参加してみてください。例え語学レベルに自信がなくても友達を作ったり新たな価値観に触れることは必ずできますし、そのきっかけとしてSAプログラムは最適なプログラムといえます。参加するに当たって必要なのは一度挑戦してみようという意思だけです。他の学生と一緒になのでみんなで助け合いながら留学を安心して経験することができます。是非一度SAプログラムで自分を見つめ直す旅に出てください。



SAプログラム体験談 //

社会人アンケート

小野 芳正さん

外資系自動車メーカー日本法人

参加時：2年
SAアメリカ

2008年2月にSAプログラムでアメリカはカンザス大学に滞在。この1カ月間は旅行を除いて自身にとって初めての海外経験となりました。海外志向だった自分にとっては海外の大学で1カ月間過ごすことは非常に非日常的な経験であると同時に次のステップ（留学）の前準備としてとても有意義な機会となりました。

事実翌年、交換留学プログラムを利用してカナダはビクトリア大学の経営学部へ入り約30の国/地域、約50の大学の経営学ないし経済学を学んでいる留学生等と学ぶ機会を得ました。

この経験を通して得られた収穫は、何より正解のない問いに対してあらゆるバックグラウンドを持った人たちと学び合うことの重要性を知ったことです。カンザス大学は当時の他の提携先と異なり、セメスターの最中に滞在できるため現地学生と積極

的に関わりを持つ主体性は特に身につけることができました。

また私のように海外経験のない人であれば、ふだん大学で学んでいる第二言語が実際はどれほどの習熟度なのか、何が足りないのか知る良い機会となるかと思えます。

そして現在はドイツ系企業に勤務して、日常的にドイツやいろんな国の人たちと業務を進めています。現在の居場所もまだ自身のキャリアの終着点とは考えてはいませんが現在地に辿り着くのにSAプログラムは確かな土台となっています。



社会人アンケート

美谷島 弘幸さん

建設会社

参加時：2年
SAフランス

私は2006年にSAプログラムを通じてフランス(ディジョン)に1ヶ月滞在しました。フランス語は卒業後、まったく触れなくなりました(笑)。ですが、言語以上に大切なものを得ることができました。一つ目は学内における交友関係の広がりです。SAには目的意識が強く、向上心ある学生が集まっています。当時、自主的に図書館に集まって語学勉強するグループを見て焦った記憶があります。そんな中に身を置き、築いた人間関係は自身をとっても成長させるきっかけになりました。またSA参加者は社会でも活躍している方が多く、卒業後10年経った今でも多くの刺激をもらっています。二つ目は仕事での可能性が広がったことです。片言のフランス語で一ヶ月生活を過ごせた、という事実は外国の方とのコミュニケーションにおいてとても大きなプラスになりました。前職の経営コンサルタントでは海外案件もいくつかありましたが、尻込みすることなくチャレンジすることができました。この一歩を踏み出したことで自身のキャリアは大きく広がったと考えています。最後になりますが、小さくまとまることなく「志」を大きく持ち、SAへチャレンジしてください。



社会人アンケート

山下 弘さん

小学校教諭

参加時：2年
SAイギリス

高校で2週間程度ホームステイの経験から、大学でも留学をしたいと思い、SAプログラムに参加しました。

学習では、能力別に分かれており安心して楽しく英語が勉強出来ました。その中で仲良くなった他国の人と遊んだり、ホストファミリーと食事に出かけたりすることで実生活に根付いた英語を学ぶことが出来ました。イギリスだけでなく、アジアや中東、様々な国の方と知り合うことで国際理解を深めることも出来ました。

今、小学校では外国語活動が教科化されることになっています。SAプログラムで学んだことを生かして子どもたちを指導しています。



社会人アンケート

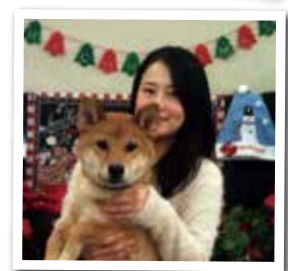
露木 愛理さん

主婦

参加時：2年
SAイギリス

軽い気持ちでSAに参加しましたが、今では海外経験は若いうちにするのがいいという話は本当だなと実感しています。

SAプログラムで感じた海外の雰囲気や英語を通じる楽しさ、通じない悔しさ、そして自分しか頼れない環境でもなんとかなるという自信は、いまの人生に活かされていると思います。



SAプログラムに関する Q&A

Q1 SAプログラムは誰でも参加できますか？

他学部生であっても、参加できますが、履修しなくてはならない科目があります。また、留学先の外国語科目の単位取得が必要です。詳細は『履修要覧』、『SAプログラム募集要項』等でご確認ください。なお、経営学部以外の学生の単位認定については、教務課にお問い合わせください。

Q2 SAプログラムは履修科目としてどのように評価され単位認定されますか？

帰国後に提出する「SAプログラム報告書」と研修先からの成績報告書を合わせて評価され、「スタディー・アブロードⅡ」（2単位）及び「〇〇語（SA）」（2単位）として単位認定されます。SAプログラムに参加するためには、当該年度の前学期（夏期プログラム）または後学期（冬期プログラム）に開講される「国際コミュニケーション」と「スタディー・アブロードⅠ」を事前に履修します。SAプラス・プログラムに参加の場合は、従来の8単位に追加して「体験学修チャレンジ」として2単位が単位認定されます。
*詳しくは履修要覧を参照してください。また経営学部以外の学生の単位認定については、教務課にお問い合わせください。

Q3 語学力に自信がないのですが、SAプログラムに参加できますか？

語学力に自信がなくても、学ぶ意欲がある学生なら誰でも参加できます。原則として、事前に本学で、対象となる外国語を4単位以上修得することが必要です。

Q4 費用はどのくらいかかりますか？

研修先によって異なりますが、大体30～70万円位です。これには渡航費用、現地授業料、滞在費（寮費またはホームステイ費）、小旅行費、海外旅行傷害保険料などが含まれます。詳しくは毎年配布される募集要項をご覧ください。
*プログラムによっては、食費が含まれておりません。

Q5 SAプログラム参加学生が応募できる奨学金はありますか？

研修前に応募し、奨学生に採用されると5万円が給付される奨学金（神奈川大学海外活動支援奨学金）があります。また、プログラムによっては、JASSO（日本学生支援機構）海外留学支援制度奨学金が学生の条件により給付されますが、神奈川大学海外活動支援奨学金との併給は不可です。詳細は学生課にお問い合わせください。

Q6 研修先がいくつかありますが、自分にあったものをどう選べばよいですか？

どの地域と研修内容に興味があるのか、ホームステイがいいのか学生寮がいいのか、時期や費用も選択のポイントです。また、前年度SAプログラムの報告会（毎年11月頃開催）に参加して、先輩たちの体験を聞くのも選択の際の参考になります。

Q7 SAプログラムについて詳しく知りたい場合はどうしたらいいですか？

まずはSAプログラムの説明会に出席してください。また説明会の日程や、個別の質問や相談については、平塚国際課のSA担当者または国際教育推進委員の教員にお問い合わせください。また、参加した学生が「神奈川大学経営学部Study Abroad Program」フェイスブックに現地での様子を投稿しています。こちらも合わせて参考にしてください。

Q8 研修先を決めたら、どこにいつまでに申込みばいいですか？

説明会開催後、平塚国際課で受付けています。（募集要項およびプログラムの申込書は、説明会会場ならびに平塚国際課窓口で配布します。）

Q9 いったん決定した研修先の変更や辞退はできますか？

原則として、研修先の変更やプログラムの申込辞退は出来ません。ただし、やむを得ない事情で辞退せざるを得ない場合は、航空券や現地プログラムなどの予約取り消し手数料の問題も生じますので、速やかに平塚国際課に相談してください。

Q10 研修先の治安や伝染病などの生活上の安全性について不安を感じるのですが。

長年にわたり海外へ学生を派遣してきた経験と、現地事情の最新情報の収集に基づき、安全性の確保に関しては最大限の注意を払っています。また「スタディー・アブロードⅠ」の授業や出発前のガイダンスでは現地での安全面に関して詳しい説明があります。行き先によっては、伝染病対策として予防接種を受ける場合もあります。

Q11 緊急事態が発生した場合の体制はどうなっていますか？

緊急事態が発生した場合、現地大学責任者、現地旅行代理店緊急連絡事務所、そして平塚国際課および国際教育推進委員の教員で構成する緊急連絡網により、24時間対応できる体制となっています。プログラムには本学部教員が引率（一部日程）するので、緊急時には現地でも直接対応します。また、SAプログラム参加者全員が、本学が利用している「海外留学生安全対策協議会（JCSOS）」緊急事故支援システム（様々な海外での有事に24時間365日対応）に加入することで、より確実・迅速な救援体制が整えられています。

その他の留学プログラムについて

SAプログラムで習得した異文化適応能力や外国語能力を中長期留学へつなげることも可能です。留学プログラムによって、異なった特徴がありますので、各自のレベルや目的に合わせて留学を検討してください。神奈川大学湘南ひらつかキャンパスでは、平塚国際課にて個別に留学の質問や相談を受け付けています。

BSAP (1年間) 経営学部

BSAP(Business Study Abroad Programme)は神奈川大学経営学部が展開する1年間の派遣プログラムです。経済成長著しいマレーシアで新興国のダイナミズムを感じながら、英語で経営学を学びます。マレー系、中国系、インド系を中心に多くの民族が共生するマレーシアの多様性Diversityを学ぶことで、「アジアの時代」に活躍できるグローバル人材として大きく成長できます。

派遣交換留学 国際センター

経営学部のSAプログラムやBSAPプログラムとは別に、中・長期(半年・1年)の留学制度があります。これは神奈川大学と海外の大学との学術交流協定に基づく派遣交換留学です。留学期間が修業年限に算入され、派遣先大学で取得した単位は、定められた範囲内で本学の単位として認定されます。また派遣先大学の授業料が免除されるほか、奨学金(月額6~8万円)も支給されます。各派遣先大学の紹介は、国際センター発行の「留学ガイドブック」を参照してください。また、派遣先により応募条件などが異なりますので、詳細は、応募時期に別途配布される募集要項で確認してください。派遣交換留学への応募時期や説明会の開催等については、国際センター掲示板や大学公式ホームページのWebサイトでお知らせします。

派遣交換留学を目指すには、渡航前までに少なくとも1年以上の準備期間が必要です。TOEFL®(英語)等の語学力証明書の取得や、留学費用の確保、また、留学期間を含めて4年間で本学を卒業するためにしっかりした履修計画を立てる必要もあります。なぜ留学したいのか、明確な目的意識を持つことも大切です。

語学研修(2~8週間) 国際センター

海外インターンシップ(4~8週間) 就職課

キャンパス内の留学の準備について

神奈川大学では、留学を希望する学生に対して様々な留学準備体制を整えています。語学力を向上させるための講座や学内で語学試験等を提供しています。また、帰国後にも留学経験が活かされるイベント等も企画しています。

English Lounge

授業の空き時間に英会話

英語力アップ集中講座

本気で英語力を向上させる

留学準備講座

TOEFL®スコアアップ

English Camp

日本にいながら短期留学体験

バディ制度

新入外国人留学生のサポート

留学生親睦旅行

留学生と交流を深める



Global
Consciousness

神奈川大学 湘南ひらつかキャンパス
経営学部 国際教育推進委員会

〒259-1293 平塚市土屋2946 TEL 0463-59-4111(代表)

URL <http://www.mgmt.kanagawa-u.ac.jp/>